株式会社 エム・システム技研

取扱説明書

富士電機製シーケンサ用変換器 ***28F・UNIT*** シリーズ

ロードセル変換器 28FLC

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

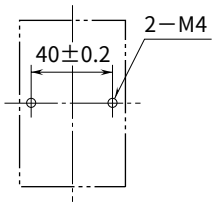
概　要

●28FLC は、ロードセルを入力とし、富士電機（株）・T リンクミニとインタフェースするユニットです。

設　置

設置には次のような場所をお選び下さい。
●屋内で、周囲温度が -5 ～ +60℃の場所
●湿度が 30 ～ 90 %RH で、結露しない場所
●雨や水のかからない場所
●腐食性ガス、粉塵や振動のない場所
取付は、壁取付または DIN レール取付が行えます。
壁取付は下記の要領で行って下さい。

取付寸法図（単位：mm）

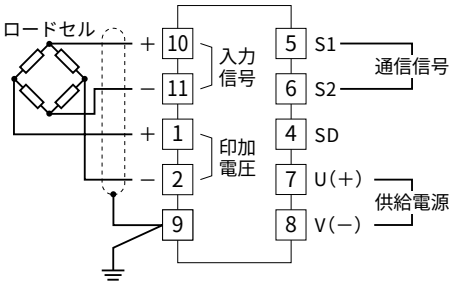


・密着取付可能

接　続

各端子の接続は下図の要領で行って下さい。

端子接続図



調　整

①印加電圧調整
印加電圧は出荷時に調整済ですので、通常は調整の必要はありません。ただし、スペックラベルに記載のロードセル感度以外のロードセルを使用される場合は、下式にて算出される電圧値に調整して下さい。

$$\text{印加電圧} = \frac{10}{\text{ロードセル感度 [mV／V]}} \text{ [V]}$$

ロードセルのブリッジ抵抗値が350Ωであれば、2～10 V の範囲で印加電圧調整が可能です。

②ゼロ調整（風袋引調整機能）
入力スパンの 80 % 相当分の風袋引調整が可能です。
無負荷時に出力信号が0 %となるように、ZERO を調整して下さい。

③スパン調整（感度調整）
入力スパンの 100 ～ 20 % までの調整が可能です。
100 %負荷になるおもりを乗せて、出力信号が100 %になるように SPAN にて調整して下さい。

注）ゼロ／スパンの調整範囲は、変換器への入力電圧スパン（印加電圧×ロードセル感度）が10 mV のときの値です。入力電圧スパンが10 mV 以外のときは、記載の調整範囲や測定精度が得られなくなりますので注意が必要です。

点　検

①端子接続図に従って結線がされていますか。
②供給電源の電圧は正常ですか。
端子番号⑦－⑧間をテスタの電圧レンジで測定して下さい。
③ロードセルは正常ですか。
印加電圧が 10 V 以下のときの許容電流は 30 mA です。
ロードセルの抵抗値を確認して下さい。
④入力信号は正常ですか。
入力端子⑩＋、⑪－間に正常な電圧が現れているかテスタの電圧レンジで測定して下さい。
最大荷重をかけたときの電圧が（印加電圧×ロードセル感度）であれば正常です。
⑤通信状態は正常ですか。
T リンク局番スイッチの設定を確認して下さい。
PWR LED が点灯していることを確認して下さい。
ALM LED が親局からの通信起動により消灯することを確認して下さい。
終端局の場合、終端抵抗をS1－S2間に接続して下さい。

雷対策

雷による誘導サージ対策のため弊社では、電子機器専用避雷器＜エム・レスタシリーズ＞をご用意致しております。併せてご利用下さい。

保　証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。